

あいさつのレベルアップ ～2学期終業式～

2学期の学校生活の様子を見ていて、校長として生徒たちの成長を実感することができました。保護者の皆様も、きっとお子様の成長を感じていただいているのではないのでしょうか。生徒一人ひとりの成長が氷上西高校の成長です。「本気で取り組み成長する西高生」、これが西高の学校文化になれば良いと思います。

【2学期終業式 校長式辞から抜粋】

みんなのあいさつの様子を見ていて、あいさつには3つのレベルがあると思いました。

レベル①は、最低限のあいさつができるように努力するレベル。

あいさつができなければ、社会人としての常識を疑われます。大人の常識、社会人の常識として「あいさつ」は大切だから、はずかしがらずにがんばる、努力するというレベル。

レベル②は、「あいさつ」することが習慣となって、ごく自然に、普通にできるレベル。

朝、人に会ったら自然と「おはようございます」と言える。校内で外からのお客さんに会えば、「こんにちは」と言える。あいさつされたら、あいさつを返すことが反射的に、ごく自然に、普通にできるレベル。

レベル③は、「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」を超えて、ほかの人と上手にかかわってコミュニケーションを取ることができるレベル。

(1) 「ごめんなさい」「ありがとう」が言える。

朝、下駄箱のところで、他の生徒とぶつかりそうになったある女子生徒が、「ごめんなさい」と言ったのを聞いて、偉いなと思いました。素直な気持ちで「ごめんなさい」と言える人は素晴らしいと思います。社会に出れば新しいことに挑戦しないとイケません。新しいことに挑戦すると失敗はつきものです。人は失敗したことよりも、失敗した後どのような態度や行動を取ることができるかで評価されます。

(2) 質問したり、話しかけたりすることができる。

オープンハイスクールで、視聴覚室がどこかわからなくて迷っておられた中学生の保護者に対して、2年生の生徒が「どうされましたか」と声をかけて、視聴覚室まで案内したそうです。その途中で、学校のことなどを話してくれて、とても感じの良い生徒だった、西高生の印象が変わったと、その保護者の方は話されていました。

(3) 困ったときに「相談する」ことができる。

社会生活を送る中では、自分の思ったとおりにうまくいかないことや自分一人では解決できないことがたくさんあります。そんな時、ほかの人に上手に相談できることが必要です。「困っています、助けてください」と上手にSOSが出せることもあいさつの先にある大切なコミュニケーション力です。

人間関係を作るコミュニケーションスキルとして「あいさつのレベルアップ」をめざしていきましょう。

(校長 高橋信之)